

運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議

---

# 部活動の在り方に関する検討課題の提案

2017年7月11日

妹尾 昌俊

教育研究者、学校マネジメントコンサルタント

文部科学省 学校業務改善アドバイザー

NPO まちと学校のみらい 理事

senoom879@gmail.com

<http://senoom.hateblo.jp>

## ある中学校の風景から



## リアルな先生たちの声(中学校、高校:複数校の一例)

1. 自分の得意な運動部の顧問だし、すごくやりがいがあります。だけど、そうではない方や自分も専門外の顧問になるときを考えると、悩ましいなと思います。
2. 私は部活指導がやりたくて小学校でなく、中学(高校)を選びました。
3. やりがいがありますけど、柔道は怪我が怖い。会議している今この時間でも何かあったとき誰が責任をとるのか。正直つらいです。
4. 部活はスポーツや文化に触れるためとか、大会に勝つためだけにやっているのではないです。生徒の人間性というか、礼儀やチームワークなどを高める場です。
5. 藤井4段のおかげで部員は増えそう。顧問の私より、子どもたちのほうが強い(笑)。
6. 生徒同士のもめごとも多くて、正直まったくやりがいはありません。ストレスばかりです。
7. 大会運営委員として駆り出され、審判などの負担が重いです。先日は大会の申込書の処理で追われました。教材研究の時間をもっと取りたい気もするのですが。

## リアルな先生たちの声(中学校、高校:複数校の一例)

8. 今までフツーに感じてきましたが、言われてみると、確かに授業を抜けて大会に出るというのはオカシイですね。顧問の先生のもつ授業は自習になったりしますし。
9. 部活は生徒にとっても、教師にとっても楽しい。だからか、若い教員を中心に、部活に逃げているんじゃないかと思うときがある。まずは授業の質をしっかりと上げてほしいのに。
10. 今の部活の数だと、全員が当たらざるを得ませんが、個人的には全員顧問制には反対です。
11. 少子化に伴う学級数減で教員の数も少しずつ減っています。部活の一部を段階的に休部・廃部にしようとしても、保護者の猛反発にあう。ちゃんと理由は説明しているんですよ。でも、なんですか。なんでうちの部なんですか、って。
12. 平日も長時間労働、休日も部活。自分の子どもを大切にできないで、本当に生徒たちを大切にできるのか、ときどき悩みます。

アンケート調査データから

**過重労働の教員は、部活動だけではない。授業準備や採点・添削、事務業務も熱心。**

日本の中学校教員の1週間の労働時間、内訳（総労働時間別結果）

(時間)

|                         | 仕事時間の合計 | 指導(授業) | 授業の計画や準備 | 学校内での同僚との共同作業や話し合い | 生徒の課題の採点や添削 | 生徒に対する教育相談 | 学校運営業務 | 一般的事務業務 | 保護者との連絡や連携 | 課外活動の指導 | その他の業務 |
|-------------------------|---------|--------|----------|--------------------|-------------|------------|--------|---------|------------|---------|--------|
| 週30時間以上40時間未満 (n=120)   | 33.1    | 16.9   | 5.4      | 2.4                | 3.6         | 1.6        | 1.4    | 2.9     | 1.0        | 5.7     | 0.8    |
| 週40時間以上60時間未満 (n=1,233) | 49.7    | 17.9   | 7.7      | 3.4                | 4.0         | 2.3        | 2.4    | 4.5     | 1.1        | 5.6     | 1.7    |
| 週60時間以上75時間未満 (n=1,249) | 64.3    | 18.3   | 9.6      | 4.4                | 5.1         | 3.1        | 3.4    | 6.4     | 1.4        | 8.7     | 2.9    |
| 週75時間以上 (n=372)         | 81.2    | 19.2   | 11.0     | 5.3                | 5.8         | 4.5        | 4.3    | 8.5     | 1.9        | 13.3    | 4.5    |
| (日本全体の平均)               | 53.9    | 17.7   | 8.7      | 3.9                | 4.6         | 2.7        | 3.0    | 5.5     | 1.3        | 7.7     | 2.9    |
| (調査参加国全体の平均)            | 38.3    | 19.3   | 7.1      | 2.9                | 4.9         | 2.2        | 1.6    | 2.9     | 1.6        | 2.1     | 2.0    |

週60時間以上働いている(≡月残業時間が80時間以上)教員

- ✓ 授業の準備に時間をかけており(10~11時間)
- ✓ 課題の採点・添削も丁寧(5~6時間)
- ✓ 事務業務(おそらく分掌業務)もよくこなし(6~8時間)
- ✓ 部活も熱心(9~13時間)

## アンケート調査データから

# 忙しくても、仕事へのモチベーションや満足度は高い人も多い (そうではない人も一定いる)ことが学校の特徴

### 日本の中学校教員の仕事への満足感等について（総労働時間別結果）

#### ◆もう一度仕事を選べるとしたら、また教員になりたい

|               | まったく当てはまらない | 当てはまらない | 当てはまる | 非常に良く当てはまる |
|---------------|-------------|---------|-------|------------|
| 週30時間以上40時間未満 | 10.0%       | 31.7%   | 44.2% | 14.2%      |
| 週40時間以上60時間未満 | 7.7%        | 35.8%   | 41.1% | 15.4%      |
| 週60時間以上75時間未満 | 7.3%        | 36.3%   | 41.3% | 15.1%      |
| 週75時間以上       | 8.9%        | 32.2%   | 40.7% | 18.2%      |

#### ◆現在の学校での仕事を楽んでいる

|               | まったく当てはまらない | 当てはまらない | 当てはまる | 非常に良く当てはまる |
|---------------|-------------|---------|-------|------------|
| 週30時間以上40時間未満 | 7.5%        | 18.3%   | 55.8% | 18.3%      |
| 週40時間以上60時間未満 | 2.9%        | 18.6%   | 60.8% | 17.8%      |
| 週60時間以上75時間未満 | 2.3%        | 20.5%   | 59.7% | 17.5%      |
| 週75時間以上       | 3.3%        | 19.5%   | 51.5% | 25.7%      |

#### ◆現在の学校での自分の仕事の成果に満足している

|               | まったく当てはまらない | 当てはまらない | 当てはまる | 非常に良く当てはまる |
|---------------|-------------|---------|-------|------------|
| 週30時間以上40時間未満 | 4.2%        | 42.5%   | 50.8% | 2.5%       |
| 週40時間以上60時間未満 | 4.4%        | 41.1%   | 51.2% | 3.3%       |
| 週60時間以上75時間未満 | 6.0%        | 48.1%   | 42.3% | 3.6%       |
| 週75時間以上       | 7.9%        | 48.0%   | 39.6% | 4.6%       |

楽しめていない人

⇒  
少数派だし、  
声には出さず  
らい

⇒  
悶々と  
ストレスを  
ためている

⇒  
精神疾患や  
早期退職の  
リスク大

楽しめている人

⇒  
やりがいをも  
って  
よかれと思っ  
て  
やっている

⇒  
歯止めがか  
かりづらい

⇒  
バーンアウト  
や  
過労死のリス  
ク大

## 学校現場の実態からの示唆・メッセージ

- 部活動(吹奏楽部・演劇部など一部の文化部も含め)が過熱してきた背景・要因を踏まえて、今後の在り方を考えないと、机上論、学校現場に浸透しないガイドラインとなってしまう。
- 休養日の必要性等に関する科学的なエビデンスを提示することなども重要だが、それだけでは、熱心にやりたい教員、生徒、保護者は止まらない(ほかの施策・働きかけと掛け合わせる必要がある)。

教育課程外であるとはいえ、  
学校教育のなかでどこまで、部活動を担うべきなのか！？  
次頁から過熱する4つの背景・要因別に  
検討課題、論点を提案する

## 過熱する背景①:生徒の成長や生徒指導のためになるから。

- 「生徒が技術的な向上を見せ、またそこでの成功体験からくる成長を目の当たりにしたとき、教師としては喜びを感じざるを得ません。  
その際の笑顔、仕草、充実感に満ちた様子は、学習における成長の瞬間と比べても遜色ないのではないかと思えるほどです。これが。これが部活動顧問の中毒性なのだと思います。」  
(真由子さんのブログより)
- 「部活動を毎日やっているから、生徒指導がうまくいくんだ。外部からの指導者では技術指導はできても、生徒指導はできない。」(教員の声)

- 【論点1】生徒の人間性、自己肯定感、やり抜く力、他者と協働する力などを育むのは、日々の授業をはじめとする教育課程内の活動を通じて行うことを優先すべき。
  - 部活動の負担が一定程度、授業準備等を犠牲にしている影響はある。過労死ラインを超えて働いているのだし、“できる人は両方しっかりできる”という論理で押し通すのは酷。
- 【論点2】部活動が生徒指導上どれほどの効果があるのか、また、部活動を縮小すると本当に生徒指導上支障がでるのかは、検証が必要。
  - 部活に入っていない(またはやめた)生徒はどうするのか？
  - やんちゃな生徒は授業についていけないからではないのか？⇒生徒指導より学習支援



## 過熱する背景②:大会で勝ちたいから。それを生徒も望んでいるから。

- 「うちの学校だけ土日の部活をしないと、試合に勝てないじゃないですか？」(生徒の声、保護者の声、顧問教員の声)
- 【論点3】各学校の部活動運営の方針として、**競技性を高めるもの(ガチでやる部)**と、**スポーツ・文化に親しむもの(ゆる部、サークル活動)**を位置付けて、生徒や保護者に説明していくべき。前者については、専門性のある指導者(技術指導力+体罰や人権侵害がない人材)を配置する必要がある。それができないなら、後者に近づけることを検討するべきでは？
  - 地域スポーツ等で競技性の高い受け皿があるものについては、学校教育から離す、あるいは学校は施設開放のみとすることを基本にできないか？
  - そのためにも、学校単位でないと大会に出場できない、といったルールは見直しが必要。
- 【論点4】試合に**勝つためにも一定の休養は必要**ということをエビデンス付で教員、生徒、保護者に伝えていく必要がある。
- 【論点5】大会をリストアップしたうえで、教員の負担や生徒の家庭時間の確保等の観点から、**いまの規模(数・頻度)でよいのか見直しが必要**。
  - 「通常の授業を犠牲にして大会に出る」という学校の当たり前を見直すべき。

## 過熱する背景③：高校入試や大学入試で有利だから。

- 「うちの子は勉強はいまひとつだけど、部活はすごいんです。高校入試でもアピールしてほしい」  
(保護者の声)

- 【論点6】高校入試でどこまで部活がPRとなっているのか、まずは実態把握が必要。そのうえで、在り方の検討と、関連情報を生徒・保護者・教員に伝えていく必要がある。

## 過熱する背景④：保護者にとって、部活に行ってもらうほうがラクだから。

- 弁当をつくったり、引率したりするなど、保護者も相当の労力がかかっている。
- しかし、保護者の意識として、部活で面倒をみてもらうことで**子育ての負担から解放**されるというところはあるのではないか？「親が留守中に家でゲームばかりやられるよりも、部活で運動しているほうがよい」と考える保護者は多いのでは？

- **【論点6】部活動の持続可能な運営について、保護者理解を高める効果的な伝え方、コミュニケーション方法について検討が必要。**
  - 学校教育は、延長保育ではありません。